

# だいたく通信 第四十号 「冬の号」

いあーわっ

新型コロナウイルスの感染が依然広がっています。感染防止には手洗いと換気が有効とされていますが、これから寒い時期を迎え、どうしても換気がためらわれる状況が多くなるかと思えます。ぜひ寒さ対策をしつつ、室内の空気をこまめに入れ替えましょう。当神社でもできる限りの感染対策をしつつ、みなさまのお参りをお待ちしております。

社報「だいたく通信」第四十四号をお届けいたします。今回の内容は、新年のご祈祷受付時間のご案内、神社に関する豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」、オリジナル・キャラクターたちが活躍する連載まんがなどです。お楽しみいただければ幸いです。

大國神社 宮司 大島資生

## 令和三年新年のご祈祷受付時間

- 一月一日（金） 午前零時～一時
- 二日（土） 午前六時～午後五時
- 三日（日） 午前九時～午後五時
- 四日（月・初子） 午前九時～午後一時
- 五日（火） 午前九時～正午
- 六日（水） 午前九時～正午
- 七日（木） 午前九時～正午

## 令和3年の厄年一覽(数え年)

	前厄	本厄	後厄
男性の厄年	24歳 平成10年生 とら	25歳 平成9年生 うし	26歳 平成8年生 ねずみ
	41歳 昭和56年生 とり	42歳 昭和55年生 さる	43歳 昭和54年生 ひつじ
	60歳 昭和37年生 とら	61歳 昭和36年生 うし	62歳 昭和35年生 ねずみ
女性の厄年	18歳 平成16年生 さる	19歳 平成15年生 ひつじ	20歳 平成14年生 うま
	32歳 平成2年生 うま	33歳 平成元年生 み(へび)	34歳 昭和63年生 たつ
	36歳 昭和61年生 とら	37歳 昭和60年生 うし	38歳 昭和59年生 ねずみ

※近年は女性 61歳の選屠も厄年とする場合もあります。

## 大國神社の今

去る十月三十一日、テレビ東京系列「出沒！アド街ック天国」にて駒込が特集され、ごく短い時間ですが、当神社も紹介していただくことができました。

番組のウェブサイトに「駒込パワースポット」として情報が記載されており、機会がありましたら、ご覧くださいませ。

<https://00m.in/KACbE>



## お宮あれこれ〜ウシの話〜

今年最後の号となりましたので、来年の干支のお話をいたしましょう。

来年は十二支の二番目、「丑」の年で、十二支では

「牛」ではなく

「丑」という字を使います。この「丑」

という漢字は象形文字で「指先に力を入れて曲げ、強くもの

を執る形」(『字通』小学館)を表わすとのこと。確かにぎゅっと力を入れて縛るときにも使う「紐(ひも)」という漢字には「丑」が入っています。十二支の「うし」に当てるのは漢字を借りてきたものだそうです。

牛と人間のかかわりは古く、スペイン・アルタミラ洞窟に残る旧石器時代の壁画には人がバイソンの狩りをする様子が描かれています。その後、人類は牛を家畜として利用するようになります。

牛がいつごろから家畜となったかについては諸説ありますが、遺跡の遺骨などから、紀元前八千〜前五千年ごろ西アジアのメソポタミアで農耕文化とともに発達したとされています。



日本では縄文式・弥生式文化期の貝塚から、朝鮮半島経由と思われる家畜牛の骨が少数出土しているそうです。

家畜としての牛には、牛乳をとるための乳牛、食用のための肉牛、そして、耕作・運搬のための役牛(えきぎゅう)があります。なお、平安時代には貴人の乗り物として牛車(ぎっしゃ)が用いられました。

普段耕作をしてもらっている労をねぎらう意味だと思われるですが、農家の年中行事には牛に特別な食べ物を食べさせるものや、牛を休ませるといったものもあるようです。そのほか、牛神信仰というものも見られます。

牛にまつわる俗信や言い伝えについても少しふれましょう。夏の土用の丑の日にはウナギなど脂肪の多い食物をとると夏やせしないとよく言われます。地域によっては頭に(う)のつくウリ・梅干しなどを食べるとよいという所もあるそうです。

この頃に牛に水浴させて休ませる習慣も西日本各地にあったようですが、丑湯と称して人間が風呂をたてて入ったり、海水浴をすると病にかからないとも言われており、薬湯に入る所もあるとのこと。夏負けしやすい頃に食物に気を配り、湯に入って養生することが大事だと考えられていたのでしょう。ただ、なぜ丑の日が選ばれたかは未詳だそうです。

各地に菅原道真公をお祀りする神社があり、一般に「天神様」と呼ばれています。北野天満宮、大宰府天満宮などが有名です。牛は天神様のお使いとして知られており、こういったお宮では道真公と牛をかたどった像がよく見られます。道真公と牛との結びつきは天神信仰の成立と関係があるようです。道真公が天神様の御祭神として神格化されていく際に、道真公の御霊のほか、天候をつかさどる雷神、大陸から渡来した漢神(か

らかみ)、密教の護法神、また、神話の世界におけるアマツカミ(天つ神)が合わさったと考えられています。このうち、漢神はたたりをなす神とされ、それを鎮めるために牛を殺してまつる行事が行なわれました。平安時代の「日本靈異記」という書物にもその記述がみられます。こうした民間での信仰が道真公と牛との結びつきにつながったのだと思われまます。

「牛にひかれて善光寺参り」という言葉があります。「思いがけないことが縁で、また、自身の発意ではなくて、偶然、よい方に導かれること」(『日本国語大辞典』)という意味です。この言葉には次のような由来があるとされます。

昔、善光寺の近くに、一人のおばあさんが住んでいた。このおばあさんはこれまで善光寺にお参りをしたことがなかった。ある日、おばあさんが干していた布を隣の家の牛が角に引っ掛けたまま善光寺の敷地に駆け込んでいってしまった。牛を追いかけていったおばあさんはそれで初めて善光寺が靈験あらたかな場所であることを知り、その後は熱心に参拝するようになった。

実にのどかなお話だと思います。

さて、来年の「牛」はわたくしたちをどこへ連れて行ってくれるのでしょうか。



## 祭礼・祈禱などの案内

### ○次回甲子祭

令和三年一月十六日(土) 午前五時～正午

○開運千人講祈禱祭 毎月一日 午前六時～正午まで

○諸祈祷受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈祷を行なっております。

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは次の電話番号もしくはメールにてお願いいたします。不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話しくください。のちほどこちらからご連絡いたします。

〈お問い合わせ・お申し込み〉

電話 ○三―三九一八―七九三〇

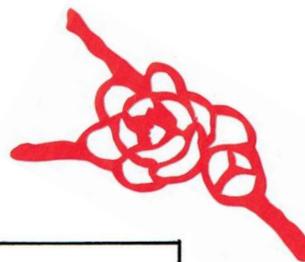
携帯 ○八〇―一九八七―八七二六

eメール daikokujinja@gmail.com



次号発行予定

「だいいこく通信第四十四号」、いかがでしたか。次号「春の号」は、令和三年三月十七日の甲子祭に発行予定です。

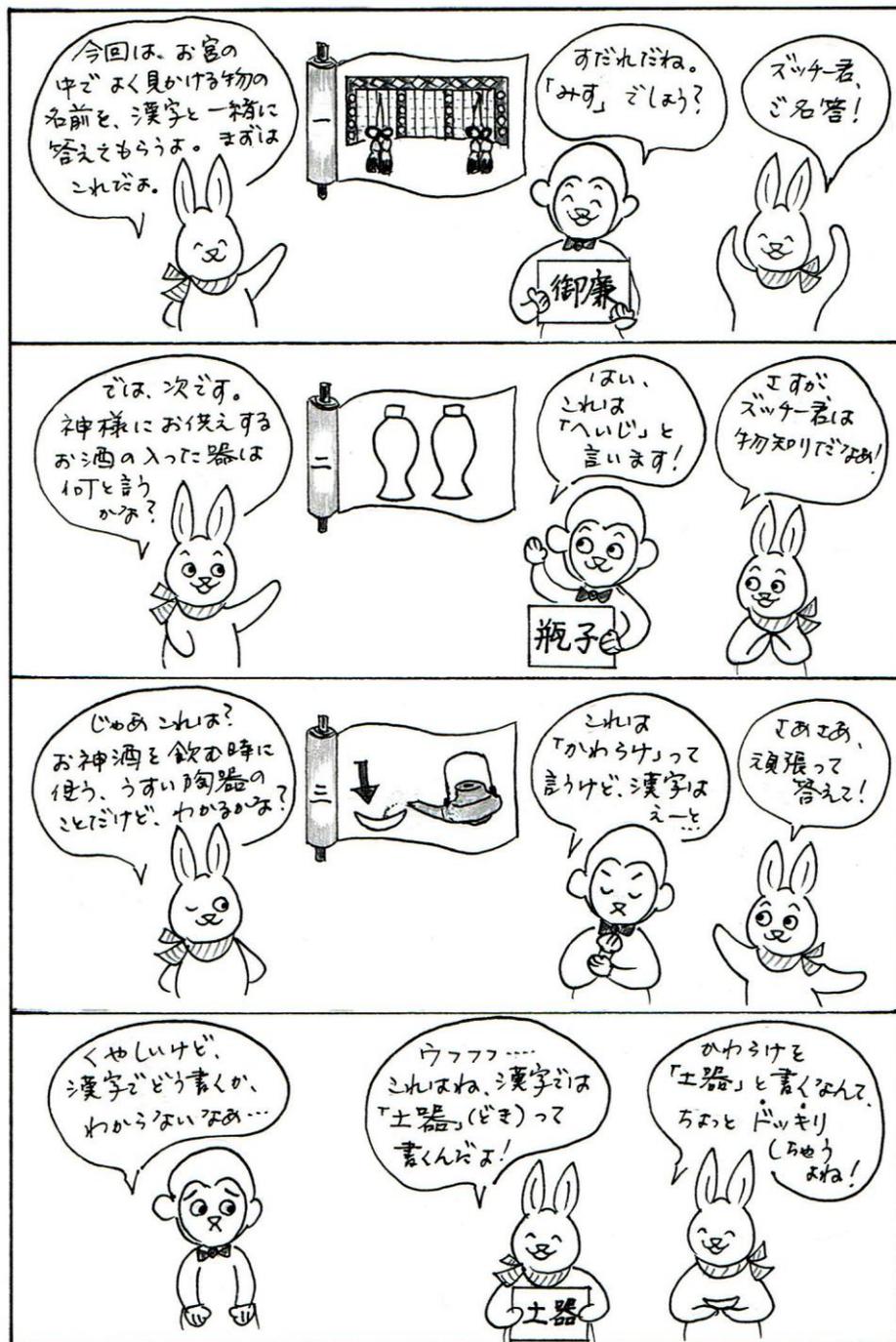


(連載まんが)

# 大吉うさぎ

## ～名前当てクイズ～

くま こまち 作



「だいいこく通信」第四十四号 令和三年十一月十七日発行

編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇—〇〇〇三 東京都豊島区駒込三—二—十一

<http://www.daikokujinja.org>